



JICAME 通信

JICA カメルーン事務所
2013年4月第10号

★★ 4月の予定 ★★

【事業・事務所の動き】

4月4日:

カメルーン熱帯雨林とその周辺地域における持続的生業戦略の確立と自然資源管理「(FOSAS) JCC (合同調整委員会)」

4月9日 - 5月19日:

廃棄物管理基礎情報収集調査

4月24 - 25日:

矢部所長、森健康管理員、安全対策クラーク出張(ガボン Oyem 陸路)

4月30日:

山本 SV 第2回ヤウンデ運動会

4月30日 - 5月18日:

TICADV 産業人材育成調査

【人の動き】

4月10日

・丸田企画調査員 着任

4月16日

・松本専門家 (COMIFAC/森林経営) 着任
・吉田専門家 (火口湖ガス災害防止プロジェクト) 帰任

4月16日 - 5月18日

・吉永企画調整員 健康管理休暇

4月26日

・惣慶専門家 (PRODERiP/総括)着任

【目次】

1. JICA カメルーン事務所長着任挨拶
2. グリベフィールドステーション近隣医療事情調査 森健康管理員
3. 南部3州 (エボロア,クリビ,サンメリマ) で情操教育普及に向けてのセミナーを開催 石原 JV

JICA カメルーン事務所長 着任挨拶

矢部 優慈郎
YABE Yujiro

JICAME 通信をご愛読いただきありがとうございます。村上所長の後任として、3月に着任しました。どうぞよろしくお願い致します。

私は1990年にJICAに就職して以来、青年海外協力隊派遣、無償資金協力、広報(著名人やメディアによる視察・取材)、市民参加イベントなどでアフリカにかかわってきました。勤務地はエチオピア、セネガルに次いで3カ国目となりますが、これまで訪問した国は22カ国におよびます。その中でも「アフリカのミニチュア」と呼ばれる民族、国土の多様性、そして特にビジネス面で見せるエネルギッシュな気質に、カメルーンの際立ったダイナミズムを感じています。

JICA 事務所が2006年に開設されてから、事業は年々拡大し、その成果は多くのカメルーンの人々に享受され、称賛されています。TICADVを機に、重点プログラムをさらに拡充し、中部アフリカでの事業拠点としても役割を果たしていけるよう、皆様のご協力を得ながらダイナミックに推進していきたいと思っております。



初等教育大臣からは学校建設プロジェクトやボランティア派遣に感謝の意が表された。

科学技術協力プロジェクト「カメルーン熱帯雨林とその周辺地域における持続的生業戦略の確立と自然資源管理」(FOSAS) グリベフィールドステーション近隣医療事情調査

健康管理員 森 龍子
MORI Ryuko

1. グリベフィールドステーション

このステーションは、FOSAS プロジェクトに関わる多数の研究者・学生が宿泊し、共同生活をしながら調査研究活動を行う活動拠点として建設されました。

グリベフィールドステーション外観



2. グリベの医療事情調査

今回、グリベ近隣の郡病院3カ所（アボン・バン、ロミエ、ヨカドゥマ）を訪問し、病院施設および検査・治療にかかる情報収集を行いました。



レントゲン撮影ができる病院はなく、臨床検査も末梢血一般（赤血球・白血球など）、検尿・検便検査、顕微鏡でのマラリア検査とごく限られた検査のみが可能でした。入院病棟には個室もありますが、利用するには躊躇するような環境です。また、救急時の搬送体制も脆弱で、ヨカドゥマの郡病院のみに救急車が配置されていますが、利用はあくまでも市内に限ら

れています。

こうした中で、交通アクセスが非常に厳しいプロジェクトサイトでの緊急移送体制を検討する必要があり、プロジェクトサイトから2時間程のサンゴボットにある木材会社の滑走路を視察し、緊急時の利用について支援をお願いしました。



木材会社滑走路

陸路移動については、ヤウンデからアボン・バンは舗装道路で約3時間、アボン・バンからロミエまでは未舗装道路で約3時間ですが、木材運搬専用道路のため大型トレーラーが優先で速度を下げず走行しており非常に危険な状況となっています。



木材満載の大型トレーラー

ロミエからグリベまでは車両1台が通過できる程度の道路幅で、なおかつ自然倒木により、倒れた木を伐採してから前進するような状況も多々見られます。通常で約5時間半程かかり、道路状況等によってはさらに長時間を要することとなります。



道を塞いでしまう大木



大木を伐採する様子

3. 提言

ヤウンデから患者さんを收容するために1日で往復することは現実的に困難で、重症患者発生時にはセスナ等による搬送を考える必要があります。また、JICA 専門家のみならず、本邦大学研究者の方々におかれても体調不良時は無理せず早めにヤウンデへ上京し、受診することも必要であると考えます。



ヨカドゥマの医療施設



ロミエ医療施設外観

第6回 活動紹介

南部3州（エボロワ,クリビ,サンメリマ）で情操教育普及に向けてのセミナーを開催

青年海外協力隊 平成24年度1次隊 小学校教諭 石原 美穂（岐阜県）
ISHIHARA Miho

【セミナー概要】

○実施日・場所

平成25年1月23日（水）エボロワ、1月30日（水）クリビ、2月26日（火）サンメリマ

○開催形式

JOCVが配属されている県事務所のある3都市でのキャラバン開催。

○目標

- ・情操教育の重要性・意義を理解する
- ・より実施しやすい情操教育活動の紹介、普及
- ・地方郡視学官、僻地教員へのアウトプット、普及

1月下旬から2月初旬にかけて、エボロワ・サンメリマ・クリビの南部州3カ所で情操教育普及に向けてのセミナーを開催しました。中央州小学校教諭ボランティアが結束して行ったヤウンデセミナーの事例をきっかけに、州単位でボランティアが結束して活動活性化を図ろうとする動向があったこと、また偶然にも同期がみんな南部州配属だったということでセミナーを開催するに至りました。



左から上橋, 宇野, 石原, 坂中, 伊藤 JV

初めてのセミナーで、ノウハウもわからず配属先と拙いフランス語でコミュニケーションを図りながら進めるのはとても苦労しました。しかし、活動経験豊富な伊藤JVと、エボロワで2年間経験を積んできた上橋JVに助けられながら、また何度もボランティア内で共通理解を深めたり、活動先と話し合ったりして無事にセミナーを開催することができました。セミナー開催後は、多くの教員や配属先関係者に情操教育の大切さや、日本人ボランティアの活動を知ってもらうことができました。セミナーで紹介した活動と一緒にやりたいと言ってくれる教員や、自分たちで早速実践している教員もいて、とても嬉しかったです。



セミナーに出席した関係者

また、今回は幼少連携という形でセミナーを実施しました。幼稚園教員、小学校教員、双方にとってそれぞれの活動が新鮮だったようで、アクティビティーの幅が広がったと好評でした。情操教育が浸透していないカメルーンで、また情操教育の経験が十分ではない教員に、情操教育の大切さや意義を理解してもらうのはなかなか難しいことですが、このようなセミナーを通して、情操教育が面白いと思ってもらえれば嬉しいです。今後は、カメルーンの未来を担っていく子どもたちに、現地教員とボランティアで協力しながら情操教育の経験をたくさん提供していきたいです。



玉入れのため輪になって行進する生徒たち



大縄飛びを楽しむ先生・生徒たち



折り紙作品の展示



編集・発行人 矢部 優慈郎

1967年静岡市に生まれる。高校時代は同級生の石野くん、瀧くんらのテクノユニット「人生」のサポートとして電子楽曲を提供（彼らは後に「電気グルーヴ（石野卓球、ピエール瀧）」として成功）。大学卒業後は、JICAで「コーラス同好会」を立ち上げ、現在のJICA音楽部では合唱指揮者（非常任）を務めるほか、伝説の社内バンド「ALMOST」のメンバーとして活動。2013年3月まで勤務したセネガルでは、ダカール国際合唱団の中心メンバー（テノール）として活躍するほか、協力隊企画ロック・フェスで一夜限りのステージパフォーマンスを演じ、セネガル人の度肝を抜いた。また、紅白歌合戦ナミビア中継後にセネガルを訪問した歌手MISIAの前で、4オクターブの声域を披露する（MISIAは5オクターブ、マリア・キャリーは7オクターブと言われる）という離れ業をやった。カメルーンでは所長に任じられたため、音楽活動は控え、当面は業務に集中する予定。

JICAME 通信へのお問い合わせは以下までお願いします。

お問い合わせ先：ca_oso_rep@jica.go.jp カメルーン事務所ホームページ：<http://www.jica.go.jp/cameroon/office/index.html>